

The 41st annual meeting of The International Society for Pediatric Neurosurgery に参加して

福島県立医科大学脳神経外科 佐久間 潤

2013年9月29日から10月3日までドイツのMainzで開催された第41回 International Society for Pediatric Neurosurgery (ISPN2013)に参加してきました。Mainzは北緯50度00分、東経8度16分に位置しており、日本周囲では樺太の中央くらいの緯度に相当する人口約20万人の落ち着いた街でした。Mainzはまたルネッサンスの3大発明の1つである活版印刷を発明したヨハネス・グーテンベルクの生誕地であり、グーテンベルク博物館(図1)は、グーテンベルク自らが印刷したとされる世界最古の活版印刷である聖書が展示されていることでも知られています。街の中にはケルン、ウルムと並ぶドイツ3大聖堂の一つである大聖堂(図2)があることでも有名です。



図1



図2

さて、ISPN2013の会長はMainz大学のWolfgang Wagner先生で、ドイツではWozburgでの第4回ISPNに続き2回目の開催とのことでした。会場となったKurfürstliches Schloss (Electoral palace)は、ライン川に面して建つ17世紀に造られた美しいルネッサンス様式の建造物でした(図3)。



図3

invited speaker 25 名を含む口演発表は 10 のセッションに分かれて 189 題、E-poster は 187 題に達し、最多の演題数であったようです。そのため口演会場は大ホールの他に初日と 3 日目は小ホールも使用しての開催でした。



図 4

学会前日の 9 月 29 日は pre-meeting として Craniosynostosis に関する symposium がありました(図4)。Craniosynostosis の分類や遺伝子的な鑑別診断という総論的な講演から、骨の扱い方や頭蓋形成の方法、吸収性プレートの使用経験、ヘルメットを使用した頭蓋形成法など各論的な講演まで、小児脳神経外科医のみならず頭蓋顔面形成を専門とする形成外科医の先生方の貴重で密度の濃い話を聞くことができました。また Nursing Symposium として欧米を中心に 22 演題の発表がありました。日本からも昨年のシドニーに引き続きあいち小児保健医療総合センターの看護師さんが発表されていたのは立派でした。

9 月 30 日の朝からはいよいよ ISPN が始まりました。この日は Adult outcome of CNS malformation、Dysraphism and Tethered Spinal Cord、Brain Malformation、Congenital Spinal Disorders という 4 つのセッションで、文字通り朝から夕方までびっしりと演題が詰まっていました。特に prenatal in-utero での meningocele closure の手術のビデオには感銘を受けました。一方、高槻病院の山崎麻美先生の脊髄髄膜瘤患者の出産に関する発表も、今後頻りに遭遇する出来事として考えさせられました。特別講演は Mainz 司教の講演でした。ドイツ語でしたが、英語の要約がつけられていました。

Raimondi award は Seoul National university の Ji Yeoun Lee 先生のニワトリ胚を用いた terminal myelocystocele の発生病理に関する論文が選ばれました。Lee 先生は昨年の小児神経外科学会にも来日された方で、小柄で非常にかわいらしい女性ですが、英語が堪能でいつも驚かされています。

夜は Rheinhessen Evening on the island Nonnenau と題したイベントがあり、バスで郊外に向かい、筏でライン川の支流に浮かぶ島に渡っての懇親会が開かれました(図 5、6)。



図 5



図 6

10月1日は早朝から ISPN と ISHCSF の joint session がありました。その後も Hydrocephalus の session が続き、水頭症三昧の午前中でした。午後は恒例の Free afternoon でライン川クルーズ(図 7、8)と Eberbach 修道院見学に出かけました。10月初めといっても、北緯 50 度だけあって川面を吹く風は冷たく感じました。Eberbach 修道院は 12 世紀に建造され(図 9)、日本では鎌倉時代に建てられた修道院がこうして現代でも機能していることにヨーロッパの奥深さを感じました。



図 7



図 9



図 8

学会 3 日目の 10 月 2 日は Hydrocephalus と neuroendoscopy、Vascular disease、Trauma & Infection、Neurooncology、Epilepsy、Functional に関するセッションがあり計 82 演題の盛りだくさんの日でした。夜は恒例の GALA dinner が、Mainz 市郊外の丘陵に立つ Hofgut Laubenheimer H?he で行われました(図 10、11)。今回は参加者が多く例年にもまして会場ぎっしりの超満員状態でした。



図 10

図 11

Best poster 賞には自治医科大学の五味 玲先生と埼玉県立小児医療センターの栗原淳先生が選ばれ表彰を受けました(図 12)。ISPN president の交代式では現会長の Kyu-Chang Wang 先生から、新会長の Gordon McComb 先生へと恒例の赤いポンチョの伝達式が行われました(図 13a、b、c)。



図 12



図 13a

図 13b

図 13c

今回の ISPN で特筆すべきことは、2014 年のリオデジャネイロ、2015 年の上海、2016 年のイスタンブールに続き、2017 年の第 45 回 ISPN が山崎麻美先生を host として神戸で開催されることが決まったことです。今回も日本から58名がドイツに集まりましたが、4 年後の神戸に向けて日本の小児脳神経外科の力を集大成し、“all Japan”で盛り上げていく必要性を強く感じました。